

「能登半島地震」対策ニュース

全国災対連 (災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会)

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階 全労連内 TEL03-5842-5639 FAX03-5842-5620

2024年1月29日

NO. 1

能登半島地震の現地を視察

1月1日の能登半島地震から3週間が過ぎた1月26日、全労連支援対策本部は小畑本部長など対策本部のメンバーが石川県庁を訪れ、義援金の一部200万円を届けました。また、被災地・七尾市の恵寿（けいじゅ）総合病院と同労組を訪問し激励しました。



全労連の小畑雅子議長（中央）は1月26日、全労連で集めた義援金の一部を石川県庁に届けました。石川県労連の桶間論議長（左）も同席しました。対応した石川県の中村一弥出納室長（右）は、馳知事が義援金の配当委員会を1月末から2月中旬に開く意向を示し「いちはやく被災者に届けたい」と語りました。

小畑議長は全労連が「被災地のために何かしたい」という組合員の声に応え、発生直後に対策本部を立ち上げ、義援金を呼びかけていることなどを紹介し、継続して支援することを約束しました。

◆ 水道の復旧急がれる 市内全域の断水が解消されるのは4月以降か

能登半島の中央に位置し七尾市から北の医療を担う拠点病院の恵寿（けいじゅ）総合病院を訪問し、石川県労連と石川県医労連から義援金を手渡しました。

進藤浩美理事と神野正隆理事長補佐から話を聞きました。断水が続くなか、井戸水や自衛隊から供給された水などを利用医療活動にあたるなか、進藤理事は「とにかく水を」とライフライン復旧の必要性を語りました。石川県労連と石川県医労連から義援金を手渡しました。

恵寿総合病院労組の真木享美（きょうみ）委員長（右）は、七尾市内の自宅で被災。現在は金沢市内から片道2時間をかけて通勤しています。介護施設に親を預けられずに出勤できない職員や、水不足で普段通りの医療ができないなかでの医療活動が続いています。3次救急を担う公立能登総合病院が受け入れられなかった患者を受け入れているため、「恵寿はキャパを超えている」状況です。「今は使命感で気持ちが張り詰めているが、これが切れてしまったら離職者も出るのではないかと心配しています」と涙ながらに語りました。



七尾松原労組では干場書記長、田中執行委員が対応され、「病院建物が古くて倒壊の心配があった。七尾市全域で断水が続いており、病院ではトイレ、食事、食器の洗浄などに不都合を生じており、一刻も早く断水の解消を、職員も被災を受けて断水などで生活の不便さを強く感じている。あらためて水の大事さを感じた」と話されました。

27日には石川県労連の長曾事務局長と全労連の渡辺事務局次長、全国災対連の松井世話人で輪島市と内灘町の被災地を回りました。輪島市内にある民医連の輪島診療所を訪問し、対応された生方診療所長は「診療所内の物品は散乱したが、建物被害はほとんどなく診療はすぐに再開できた。本来なら避難所の被災者などを診て回ることが必要だと思っているが、道も街中も危険でなかなか動けず、ボランティアの受け入れについてもいま何をすればいいのか悩んでいるところ」と語りました。（以上）



（左）輪島朝市通りの火災痕 （右）輪島塗「五島屋ビル」の崩壊 （下）隆起した輪島港の今